

## 毘沙門岳 1386m・山スキー報告 平成22年1月24日(日)

メンバー:IO、KO(記)

天候:晴れ

コースタイム:白鳥高原スキー場top(9:10-9:20)～標識・登山道との合流点(10:20-10:25)～山頂(11:00-11:15)～鞍部・登り返し地点(12:10-12:20)～白鳥高原スキー場top(12:50)

概要:白鳥高原スキー場から簡単に登れる毘沙門岳を往復した。所要時間3時間半程のスキーハイクといったところである。山スキーをするには面白さに欠けるが、スノーシューハイキングや、車が2台あれば、いとしるシャロットタウンスキー場までのツアーにすれば充実するであろう。今月の1月4日にHMさんらはこのコースでツアーしている(報告参照)。

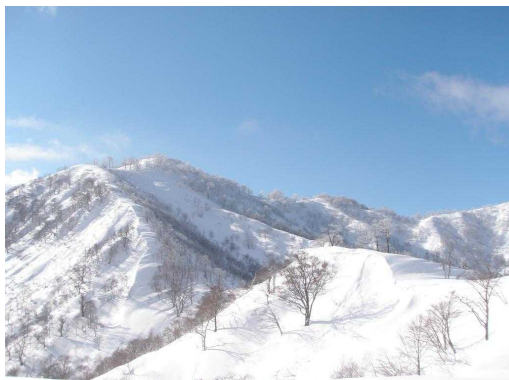
前日はウィングヒルでゲレンデスキーを楽しみ、朝はゆっくり出発、8時45分頃に白鳥高原スキー場に到着した。天気は上々、ゲレンデは昨夜の雪も止み、新雪が20～30cmほど積もっていた。今日は雪のコンディションも上々となり、絶好のツアー日よりとなった。まず、フード付きのリフトに乗車してゲレンデトップに至り、準備に取り掛かる。相棒は昨シーズンから取り入れたスノーシューとミニスキーのスタイル、私はミニスキーにシールを貼り付ける。そばにいたボーダーが、「これから毘沙門岳へ行くのですか」と声を掛けてきた。彼は先週、往復したそうである。好感の持てる若者であった。

今日の先行者はなし。バージンスノーにトレースを付けながら登っていく幸せを感じながらゆっくり進む。ゲレンデから少し登ると視界が広がり、毘沙門岳の山頂がスカイラインの美しい雪稜となった尾根上に見えてきた。これより先、少し歩くといきなり50mほどの下りとなっている。ここは、唯一帰りに登り返しが必要になった、面倒な箇所であった。

下ったところからしばらく歩くと、標識のある登山道との合流点に達した。標識にはこれより30分の表示がある。ここからは急峻な登りとなっており、斜面は所々ウィンドクラストしている。私は安全を期してクートを装着することにした。クートを付けたおかげでクラストした斜面も安心して登ることができた。相棒のスノーシューも快適に登ることができ、威力を発揮していた。昨シーズンから取り入れたスノーシューとミニスキーの取り合わせはお薦めのようなのである。今後、山スキーをしない仲間にはスノーシューハイクを積極的に呼びかけて行くことにした。

標識から頂上までは約30～40分、左側に張り出した雪庇を避けながら、クラストした斜面を慎重に登って行った。眼下の景色と樹氷が美しい。到着した頂上はふっくらとした樹木のない真っ白い雪山となっており、標識はすっかり雪に埋もれて分からなかった。頂上からは、ウィングヒルスキー場から続く水後山と大日岳、雲の中に見え隠れする白山、野伏ヶ岳などの石徹白の山々、オサンババから烏帽子岳、さらに伊吹山もかろうじて見ることができ、満足した。

山頂で15分程過ごして下降に移る。トレース近くの新雪にシュプールを刻みながら下り、所々クラストしているところは慎重に降りる。雪は軽く、快適に分岐点までの滑降が楽しめた。下ったところで、何故かパラパントの残骸を見つけた。これより先は小さなアップダウンを行い、登り返し地点に至った。ここでスノーシューとシールに履き替え、50m程の高低差を登り返す。その後、再びスキーに履き替えてゲレンデに戻った。こうして、今日は天候に恵まれ、楽しいスキーハイキングとなった。



毘沙門岳を望む



林間のコースを歩む



樹氷が美しい



登山道との合流点にある標識

山頂付近



野伏ヶ岳 薙刀山 経ヶ岳 別山までの大展望



白山